

東京都港区議会
「みなと政策クラブ」
出雲市
行政視察報告書

テーマ・教育委員会改革

平成 24 年 11 月 12 日～13 日

作成者 清家あい

参加議員 全5名

七戸じゅん

樋渡紀和子

杉浦のりお

小田あき

清家あい

(順不同)

【行政視察行程】

〈視察目的〉

- ・「みなと政策クラブ」では、教育問題に積極的に取り組んでいるが、日ごろから教育委員会改革の必要性を強く感じており、先進的な改革を行っている出雲市教育委員会を視察し、改革の実態、成果、港区での実現可能性について検証する。
- ・港区では「新教育センター」開設計画があり、実験など科学体験の充実などを目指したいとしているが、「出雲科学館」を視察することで、その具体的なイメージをつかみ、港区にふさわしい「教育センター」のあり方を検討する。
- ・出雲市には、「平成の大遷宮」を迎える出雲大社があり、近くには5年前に「世界遺産」登録された石見銀山がある。港区にも多種多様な歴史的遺産があり、これらを積極的に観光政策に結び付けていきたいと考えている。こうした歴史的遺産の観光政策について研究する。

11月12日

東京発→出雲大社→出雲市役所（市教委からレクチャー）→出雲科学館視察→宿

11月13日

宿→石見銀山視察→東京着

※移動手段は飛行機。石見銀山ではレンタカー。

※宿泊先については、別紙添付。

出雲市の概要

水と緑の自然が豊かなまちであり、ぶどう、柿、いちじく、出雲そば、島根ワイン、出西しょうがなどの特産品が有名である。

【地図】



- ・人口：174,960 人（うち外国人 1,807 人）
- ・世帯：59,857 世帯（うち外国人 1,262 世帯）
- ・面積：624.13k m²
※平成 24 年 3 月 31 日現在
- ・財政 24 年度一般会計当初予算額 767 億円 22 年度財政力指数 0.484

産業別就業人口（平成 22 国勢調査）

第 1 次	5,569 人	6.5%
第 2 次	22,505 人	26.3%
第 3 次	53,734 人	62.8%
分類不能	3,747 人	4.4%
合計	85,555 人	100.0%

出雲市教育委員会視察



「出雲市における教育改革」

・教育改革の経緯、背景

近年、学校教育現場において、不登校やいじめなどへの対応や社会性・規律の欠如、基礎学力の低下など様々な課題に直面している。こうした学校だけの解決が困難な多くの課題に対し、市町村が地域の子供の将来のために地域の教育力を活かしながら細かく対応する必要があるが、教育委員会の所管があまりに広範で、密度の濃い学校教育行政を遂行できる状況にない。また、教育委員会は独立した行政委員会としての主体的、積極的な教育施策の展開に限界がある。しかし、教育委員会の所管のうち、文化・スポーツ・生涯学習などの部門は市民生活に密着した分野であり、総合的な市行政の中で一元かつ効率的に執行することが適当である。

・教育行政組織の改革

平成 13 年 4 月から教育委員会の所管していた事務のうち、文化・スポーツ・生涯学習などの部門を地方自治法の補助執行の規定により市長部局に移管することとした。

これにより、教育委員会が学校教育問題に専念できるようになり、従来以上に学校現場とのコミュニケーションが密になった。

さらに、教育委員会と市長部局双方の合同協議の場として「教育行政連絡協議会」を設置し、学校教育及び生涯学習等分野の基本方針や重要施策決定にあたり必要な協議、連絡を行うため、3 か月に 1 回を目途に開催することとした。

その後、小中学校の運営・支援のあり方や地域交流活動の在り方を総合的に調査・審議するため、市民代表等で組織する「出雲中央教育審議会」が設置された。

そこでは、地域の文化・スポーツ・生涯学習活動は総合的な視点での支援が不可欠であり、また人づくりやまちづくりという観点から、一体的な推進体制の構築が求められるとされた。これを踏まえて、機構改革を実施し、教育行政組織を一元化し、文化・スポーツ分野に加え、生涯学習部門を市長部局において補助執行することとした。

平成 17 年 12 月、「出雲中央教育審議会」が「地域・学校・家庭が一体となって協働して学校運営にあたる「地域学校運営理事会」制度の導入が必要」と答申。これを受けて、出雲市では平成 18 年度末までに、全国で初めて、市内すべての小中学校（小学校 36 校、中学校 13 校）に「地域学校運営理事会（コミュニティースクール制度）」を導入。

自治会や保護者代表、民生児童委員など地域の人材を結集し、学校の経営者として、学校運営に参画し、地域・学校・家庭の三者が協働して、学校教育活動などに対し積極的に支援・協力する新しいシステム。平成 20 年度、理事の参画意識を高めるため、学校管理経費などの予算配分権をそれぞれの理事会に付与。これにより、平成 23 年度は、特別支援教育補助者（スクールヘルパー）を小学校 6 校で計 6 人増員し、小・中学校 6 校で 15 人の配置時間増をしている。また、小学校 4 校では、読書ヘルパーの配置時間増に活用された。

平成 23 年度、各中学校区に「地域コーディネーター」を配置し、約 1 万 5 9 0 0 人の「学校支援ボランティア」の協力を得ている。

・教育行政改革後に実施した学校教育に係る主要事業

【平成 13 年度】

幼稚園における自主企画特別事業の実施

子どもたちの興味・関心を引き出す魅力のある幼稚園づくりを進める。

【平成 14 年度】

出雲科学館における小中学校の理科学習の実施

学校の理科室では十分に行えない実験や観察を、最新の高度な設備・装置を使用し体験することで、独創性豊かな学習能力・意欲の向上を図る。

不登校対策指導員の配置

不登校児童生徒及び保護者に対し家庭訪問による相談、援助、指導を行う。

スクールヘルパーの増員

児童生徒が豊かな心を持ち、主体的に生きていく力を育むために、児童生徒の個別学習支援、美化活動、図書館活動等の諸教育活動支援、部活動支援等に当たっている。

【平成 15 年度】

朝山幼稚園における幼保一元化施設の開設

保育機能を付加した早朝を含む預かり保育事業を実施し、保護者が家庭に近いところで預け、安心して就労できる環境づくりを推進する。

幼稚園ヘルパーの配置

生活習慣の身につけていない多動傾向等のある子どもがいる園に配置する。

【平成 16 年度】

ウィークエンドスクール事業の実施

小学 5 年生以上及び中学生に対し、自学自習を支援するため毎週土曜日に開講する。

イングリッシュスクール事業の実施

国際交流活動の場において、英語でコミュニケーションできる生徒の育成を目指し、興味のある中学生を対象に、毎週土曜日に開講する。

スーパーイングリッシュ事業の実施

国際的な視野に立って考えたり行動したりできる力を養うため、英語力の向上を図ることを目的として、小学校 6 年生を対象に毎日実施する。

【平成 17 年度】

小中一貫教育の全市展開

【平成 19 年度】

第 3 子以降の幼稚園保育料無料化（長時間預かり保育料含む）

【平成23年度】

保幼小一貫教育の推進

「保幼小一貫教育講演会・研修会」を開催し、実践発表を交えた研修を行うなど、教職員相互の連携・協力体制を整えるとともに、園児と児童相互の交流学习の充実、接続器の教育内容・指導方法の改善などを図る取組を行う。

・文化・スポーツ・生涯学習分野について

組織改革後、社会や住民意識の変化に対して機敏に対応することができるようになった。

公民館のコミュニティセンター化

従来の生涯学習施設としての機能のほかに、福祉や環境分野など地域のまちづくり総合センターとして活用できるようになった。

子ども会の育成

地域で子供を育むという視点から、「21世紀出雲市青少年ネットワーク条例」を制定し、幅広いネットワークを作るとともに子ども会の育成を進めた。

観光担当部門との連携強化

文化財に関し、教育・文化・観光資源として活用するという視点に立つとともに、連携が格段に強まった。

W杯出場のアイルランド出雲キャンプ誘致の成功

誘致運動のための各国との様々な交渉や施設整備を巡る県協議など、市長部局において、市長が先頭に立ち成功に導いた。

・教育行政組織改革の評価

教育委員会を学校教育に特化したことにより、学校現場との意思疎通を図りながら迅速に細かな施策を打つことが可能になった。また、多様な立場の市民からの声を積極的に取り入れ、政策立案機能を果たすようになった。

【感想】

・平成元年に岩国哲人（民主党）氏が1期半市長を務め、平成7年に都知事選出馬のため、文部官僚の西尾氏が市長となった。こうした改革的な政治土壌があり、全国的に先駆けての教育委員会改革が行われたという点が興味深かった。

・平成9年ごろから教育現場が荒れ、いじめや不登校の問題が顕著になり、教育委員会が対応するには守備範囲が広すぎるということで教育委員会改革の流れが起きた。教育委員会は条例制定権を持たず、住民ニーズが多様化する中、市長部局の方が予算がつきやすく、スピーディにできるというのは、その通りであり、港区でも思い切った改革を進めていくべきと考える。

・幼稚園と保育園の問題については、「市内には32の幼稚園があり、うち30園が市立。充足率は50%程度で、夕方まで延長保育がある。保育園はほとんど私立。保育所が6割で、幼稚園が4割。待機児童は100人くらい。幼稚園部門を保育園管轄に入れていく方向の方がうまくいくと考える。保育園の幼稚園化のほうが圧倒的に多く、幼稚園の保育所化というのはありえない」と話していたのが印象的。

・幼稚園における子育て支援としては、①幼稚園一時預かり保育事業として、幼稚園の教育時間外に行う預かり保育を市内14園で実施。②幼稚園長時間預かり保育事業として、保育機能を付加した長時間の預かり保育を市内11園で実施。③遠距離通園対策事業として、定期券の購入助成や園バス運行を行っている。

・学力調査事業も行っているが、県学力調査では、すべての学年・教科で県平均正答率を上回り、県内でも上位の結果がでている。

・どこの自治体でも同じような教育現場の問題、教育委員会の縦割り弊害の問題を抱え、さまざまな問題が顕在化する中で、このように積極的に改革にのりだす自治体があり、注目も集め、効果もあげている。現状の教育委員会制度がいかにか現状に見合わないものになっているか、深刻な問題が放置されたままになっているか、という点を考えれば、国が教育委員会制度の抜本的見直しに早急に取り組むべきと考えるし、自治体からも可能な限り、効率的な行政運営や学校教育の問題解決のために、改革を進めていくべきだと考える。

「出雲科学館」視察

【概要】

子供たちの科学に対する好奇心や探究心を高め、問題解決能力や創造性を育む施設として、また年代を問わず「学び」「遊び」「楽しむ」ことのできる障害施設として、さらに、教職員の研修や教材の研究・開発に活用できる施設として、平成14年7月に開館。

- ・ 所在地 出雲市今市町 1900 番地 2
- ・ 建設事業費 42 億 9400 万円（本館 33 億 8700 万円、新館 9000 万円）
- ・ 工期 本館：平成 12 年 12 月～平成 14 年 4 月
新館：平成 18 年 10 月～平成 19 年 6 月
- ・ 面積 敷地 15,684.2 m²
建物 6,824.4 m²（本館 4,841.2 m²、新館 1,983.2 m²）
- ・ 構造 鉄骨造（本館 2 階建て、新館 3 階建て）

・各部屋の特徴

名称	特徴
サイエンスホール	1 階電動式移動観覧席 104 席、中 2 階 67 席。 大型観察実験装置を配置し、顕微鏡などによる映像を使った学習や各種映像資料を使った学習を展開できる。
実験室 1,2 実習室 1,2	豊富な観察・実験機材を設備し、実験からものづくり、パソコン教室まで展開できる。簡易型プラネタリウムもあり、20 人～40 人の天体学習に対応している。
創作工房（工作室、木工室、金工室）	ロボット工作や手工芸などあらゆるものづくりを行うことができる。
展示体験プラザ	手で触れたり動かしたりしながら、科学の基本原理や楽しさ、不思議さなどを体感できる。
情報ステーション 先端情報コーナー バーチャルサイエンスワールド	科学に関する様々な情報を映像や図書などにより提供する。 また、バーチャルリアリティの世界を体験するコーナーも配置している。
実験室 3,4 実習室 3,4【新館】	映像やインターネットを活用して、楽しく効率の高い学習を展開している。
多目的室 1,2,3【新館】	多目的室 1 には簡易型デジタルプラネタリウムを設備し、50

人までの天体学習に対応している。多目的室3では映像資料を使った学習及び各種会議を展開できる。



外観



室内



実験室



プラネタリウム

【感想】

- ・こどもたちが楽しめる施設として、夏休みは人気の的ということ。自分で触ったり、体験したりできるコンセプトになっていて、子供から大人まで楽しんで科学の不思議を体感できる非常によい施設だと思った。
- ・おかげで、出雲市のこどもたちの科学の成績は常に県内トップといい、大きな成果を上げている。
- ・学校教育への活用としては、小中学生をバスなどで送迎し、学年に応じて年間1～3回の理科授業を行っており、平成23年度はのべ616学級、1万7750人の受け入れを行っている。
- ・不登校の子供たちも、科学館での授業には参加できるといい、そういう面でも非常に意味のある事業だと思った。

「出雲大社」視察



【概要】

島根県出雲市にある神社。約 60 年に一度行われる本殿の建て替えに際して、神体が仮殿に遷御された後に、本殿の内部及び大屋根が公開されることがある。国宝である現在の御本殿は 1744 年に造営され、これまで 3 度の遷宮が行われてきた。現在、60 年ぶりとなる「平成の大遷宮」が行われている。

遷宮とは、御神体や御神座を本来あったところから移し、社殿を修造し、再び御神体にお還りいただくこと。木造建築の建物を維持していくため、社殿の建築など様々な技術を継承していくため、または神社は清浄であることが必要であるから遷宮を行う、など、理由については諸説がある。

出雲大社本殿は 1900 年に重要文化財に指定され、1952 年には文化財保護法に基づく国宝に指定された。2004 年には重要文化財「出雲大社」として、社殿 21 棟および鳥居 1 基が一括指定されている。美術工芸品の中にも、国宝や重要文化財に指定されているものがある。

日本最古の歴史書といわれる「古事記」にその創建が記されているほどの古社で、まつられている大国主大神は縁結びの神、福の神としても名高く、近年はパワースポットとし

でも注目されており、年間 200 万人を超える参拝客でにぎわっている。

「石見銀山」視察



【概要】

島根県大田市にある、戦国時代後期から江戸時代前期にかけて最盛期を迎えた日本最大の銀山である。上述の最盛期に日本は世界の銀の約 3 分の 1 を産出したとも推定されるが、当銀山産出の銀がそのかなりの部分を占めていたとされる。明治以降は銅などの鉱物が主に採鉱された。

石見銀山にある歴史的な建造物や以降は市・県・国などによって文化財に指定、選定され保護されてきた。重要伝統的建造物群保存地区として選定され、その後も選定区域を拡大させるなどした。

日本政府は「東西文明交流に影響を与え、自然と調和した文化的景観を形づくっている、世界に類を見ない鉱山である」として「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産登録を目指した。2007 年には世界遺産としての登録が決定され、日本の世界遺産登録としては 14 件目、文化遺産としては 11 件目、産業遺産としてはアジア初の登録となった。登録対象は銀鉱山跡と鉱山町、石見銀山街道、港と港町である。一度は登録延期勧告を受けたが、銀山周辺に残る自然が決め手となった。

【感想】

・ともに、歴史的な重みを感じさせ、まちのシティプロモーションの中核をなす存

在であり、観光案内、パンフレットやポスター、グッズ販売など、まちぐるみで観光客をもてなす体制がとられていた。

・「みなと政策クラブ」には80歳になる議員もいるが、石見銀山では一部、自動車では入れず、長い道を徒歩でいかなければならない場所があり、大変だった。今後、一層高齢化が進む中、高齢者への配慮、という視点も、観光政策の重要な課題になってくると感じた。